Music from PaToNa　NEWS RELEASE

vol.44

# いつくしむ

2025年7月3日（木）19：00開演

◆曲目

ハイドン
**弦楽四重奏曲 第64番 ニ長調**
**作品76-5 Hob.Ⅲ:79「ラルゴ」**
ベートーヴェン
**弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調 op.59-2**
**「ラズモフスキー 第2番」**
ボロディン
**弦楽四重奏曲 第2番 ニ長調**

◆出演

Quartet PaToNa

**神谷 未穂（ヴァイオリン）**
**小川 有紀子（ヴァイオリン）**
**井野邉 大輔（ヴィオラ）**
**三宅 進（チェロ）**

2024年度の公演で大きい反響を頂いたのは、vol.41でQuartet PaToNaが演奏した、ショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲 第8番でした。厳しい社会情勢の中に生きた作曲家の叫びともとれる筆致で描かれた作品を鬼気迫る演奏で弾ききったQuartet PaToNa。同じオーケストラで時間を共にしてきたからこその深い音楽でした。2025年のシーズンに臨むのは、ハイドン、ベートーヴェン、ボロディン。弦楽四重奏というジャンルは、ハイドンが確立し、ベートーヴェンがそのすべてを表現しつくしてしまったと言われるほど。中期のラズモフスキー候に献呈されたこの作品は4人で交響的な音楽が作り出されます。第1楽章のドラマティックな展開、第2楽章の美しさは神がかっており、第3楽章にはロシアの古いメロディが中間部に引用されています。第4楽章は、疾走するギャロップのような雰囲気があります。今回の3曲に共通して、最終楽章の「駆ける」リズムに特長があります。本業が化学者であるボロディンが作曲した弦楽四重奏曲第2番は、第3楽章の「ノットゥルノ」の甘美なメロディがあまりにも有名です。妻に向けて捧げられた作品と言われています。名曲3曲。じっくりとお楽しみください。